

# 日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第101号 平成30年(2018)3月31日

## 資料見聞

### 徳島県海部郡美波町東由岐の康暦板碑

岡本 桂典

美波町は徳島県の南部、海部郡の東部に位置しています。町の北は阿南市、西は海部郡牟岐町・海陽町に接し、南には太平洋が広がります。山地は海岸部まで迫り、平野部が少ない地形です。この地域は、室戸阿南海岸国定公園で、四国霊場第二十三番札所 医王山無量寿院薬王寺もあります。

由岐(旧由岐町)は、

美波町の北東部にある港町で、この板碑は現在港の東、東由岐字大池に造立されています。板碑の現在の大きさは、高さが156cm、幅63cm、厚さ10cmで砂岩製です。大正2年(1913)の『阿波国徴古雑抄』には、この板碑の事が記されています。板碑は摩滅が進み、さらに板碑の下部は折れ、破片はタブの木に包まれていたと紹介されています。

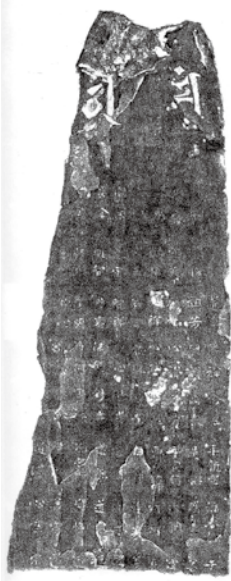
すでにこの時に板碑は破損していたと考えられます。現在板碑は、高さ40cm、幅157cm、奥行き73cmの台石に、柄孔を穿ち、下部を差し込み、モルタルで固

定されています。

さて、この板碑は「東由岐康暦碑」として町指定有形文化財となつていますが、銘文には地震・津波の事は刻されていません。しかし江戸時代の



康暦板碑(美波町東由岐)



右写真の康暦板碑拓本

文化12年(1815)頃には、地震・津波に関係する伝承があつたようです。遡って、『太平記』には、康安元年(1361)6月28日に大地震が発

生し、阿波の雪湊(由岐)では、津波により一七〇軒あまりの家が海底に沈み、僧俗男女牛馬鳥犬に至るまで藻屑と消え去つたと書かれています。この板碑は、かかる被災者を供養したものと伝承されていますが、先に述べたように碑文からはその事は読み取れません。板碑は、上部の梵字が欠損していますが、釈迦三尊(釈迦・文殊・普賢)の梵字を刻し、その下に約70人の僧や武士名を刻しています。板碑下部は失われていますが、「四季供養／造立塔婆／書寫□經／康暦二庚申(一三八〇)霜月廿六日」と刻されていたとされています。碑文をみると講集団により造塔された結集板碑と考えられます。さらに、「書寫□經」とあることから、写経した經典を埋経したものと考えられます。下部の銘文の「四季供養」は、増一阿含經に説かれる衣服・飯食・臥具・湯薬の供物を捧げるという「四事供養」の読み間違いではないかと考えられます。この板碑は、直接地震に関係するものとは言えませんが、中世にも地震・津波碑に関係する塔婆が存在することを示唆しています。

企画展「安政地震、幕末を揺るがす―土佐・阿波の地震・津波碑が語るもの―」では、この碑の写真をはじめ徳島・高知の南海地震に関する石碑等の拓本を展示紹介します。ぜひ、ご覧ください。





志国高知 幕末維新博覧会第6弾

## 企画展「安政地震、幕末を揺るがす」——土佐・阿波の地震・津波碑が語るもの—— に寄せて

会期：平成30年4月28日(土)～7月1日(日)

曾我 満子

平成23年(2011)3月11日に東日本大震災が発生してから7年が経ちます。この震災では、想像を絶する大津波により甚大な被害がもたらされました。震災以降、東北地方をはじめとして各地の地震・津波碑(以下「碑」と称する。)があらためて注目されています。四国の高知・徳島県の沿岸部にも碑が分布しています。

高知県では、現在、南海トラフ地震への備えが大きな課題になっています。

当館には、安政南海地震などの碑を主とした拓本が収蔵されています。これらは、『歴史探訪 南海地震の碑を訪ねて 石碑・古文書に残る津波の恐怖』(毎日新聞高知支局・平成14年)を刊行する際の調査で採拓されたものです。平成22年度に高知県の碑の拓本の寄贈を受け、企画展「命の碑——土佐の地震・津波碑——」(平成25年度)を開催し、拓本を写真、碑の模型とともに展示公開しました。

その後、平成27年度に徳島県の碑の拓本の寄贈を受け、当館収蔵の拓本は、高知・徳島両県を合わせて44件となり、広域的な資料が揃いました。

高知県では昨年より「志国高知 幕末維新博」を開催しており、地域会場である当館も、幕末維新期に焦点を当てた企画展を相次いで開催しています。本展では、幕末に起きた安政南海地震をテーマとし、土佐・阿波の碑等の拓本を中心に、そこに記された内容をご紹介します。

### 碑の拓本

碑自体は、過去の震災を今に伝えています。海岸近くにあるため、風化が進みやすく、時を経てその文字の判読が難しくなったものもあります。拓本を採ることにより、文字は明瞭になり、さらに二次資料として、銘文を残すことが可能です。近年においては、デジタル技術を用いての3Dモデルによる保存も試みられています。

### 南海地震について

安政南海地震は嘉永7年(1854)11月5日(旧暦)の夕刻に発生しました(安政に改元するのは嘉永7年11月27日)。その前日、4日の朝には安政東海地震が起き、特に駿河湾から伊勢

湾の海岸沿いの地域に甚大な被害をもたらしました。土佐・阿波でも大きな揺れとともに津波の被害を受けています。

さて、本展で取り上げる、「南海地震」ですが、最近、「南海トラフ地震」という名称もよく耳にします。両者について、ここで整理しておきます。

「南海トラフ地震は、南海トラフ及びその周辺の地域における地殻の境界を震源とする大規模な地震をいい、この中には南海地震や東南海地震、東海地震などが含まれます。それぞれの地震が単独で発生する場合もあれば、複数の地震が同時または時間差で発生する場合もあります。」(高知県庁より)

南海地震は、東南海地震・東海地震も含めた大規模な南海トラフ地震の一つです(トラフとは固い岩盤であるプレートの境にある海底峡谷のこと)。直近は、昭和21年(1946)に起きた南海地震、その前が、本展で取り上げる嘉永7年(1854)の安政南海地震、もう一つ前が宝永4年(1707)の宝永地震(東海地震と同時発生)です。

これらの地震は、1000～1500年に毎に繰り返して起きており、発生間隔がある程度一定しています。また、科学的知見に加えて、各地に残る古文書や、今回取り上げる碑の銘文は過去の南海地震を知るうえにおいて有用な情報を含んでいます。これらを踏まえて備えを行うことにより、将来発生する南海地震の減災は、不可能ではないと考えられています。

### 土佐・阿波の碑

現時点で確認されている碑等の数は、土佐に建立されたものが38基、阿波に建立されたものは39基です。そのうち、安政南海地震の内容を記したものは土佐22基、阿波19基です。

また、徳島県では、39基のうち19基が、平成29年度に全国で初めて国の登録記念物に登録されました(国の登録に先がけての町指定の文化財は5基)



浅川天神社石碑(旧碑)  
徳島県海陽町 国登録記念物  
安政東海地震、地震の前兆現象、津波について詳細に記す。



## 碑の建立地

土佐の碑は、香南市から土佐清水市・宿毛市の西部にかけての沿岸部に建てられています。

阿波の碑は、阿南市以南の県南部の海岸沿いの地域に多く、特に高知県と接する海陽町には多くの碑が建てられています。

碑は、入り江、湾、海岸など海沿いで集落のある場所の立地が多くを占めています。海に近いこれらの場所には、大きな津波が押し寄せ、人々の生活の営みに直接の被害を及ぼしました。

なかでも、寺社に建つ碑が約半数を占めています。寺社は人々の信仰をあつめ、事ある毎に地域の住民が集う場所であるため、多くの人々に震災のことを心に銘じてもらおううえで意味のある場所であったと考えられます。建立年代が新しい碑では、公民館や小学校（跡）に残っているものもあります。こちらも多くの人目につく場所が選ばれています。

## 記された内容

碑文の内容は、供養のためや、後世へ震災を伝え、<sup>いさめ</sup>誠めとするためなど、建立目的により異なりますが、次の項目などが記されています。①安政南海地震発生日、②異常・前兆現象、③前日の安政東海地震、④避難の様子、⑤津



岸本飛鳥神社懲愆碑（正面・拓本）  
高知県香南市香我美町岸本

波、⑥被害状況、⑦過去の大地震、⑧建立目的、⑨筆者・建立者名等、⑩建立年月日

前述①～⑩全ての項目について記された石碑を一例として取り上げます。

右の拓本は、高知県香南市香我美町岸本の飛鳥神社懲愆碑です。懲愆とは、懲りて慎むこと、という意味です。以下は項目の抜書き（意訳）です。

①安政南海地震発生日…安政元年11月5日八ツ時（午後2時）過大に震動すること三度、七ツ時（午後4時）過どろどろと地響きがして、大地震が起きた。

②異常・前兆現象…岸本の浦で約十間（18<sup>トイ</sup>）潮が引き、手結の湊も干上がつて鰻が多く獲れた。

③安政東海地震…11月4日朝五ツ時（午前8時）頃地震があった。

④避難の様子…人々は協力しあつて王子須留田または、平井大龍寺の山へ

と避難し、命は助かった。

⑤津波…津波が来て徳善町より北の田中、赤岡は西濱並松の本、吉原は庄屋の門まで及んだ。又川尻の波は赤岡神輿休のほとりまで来た。古川、夜須の堤防も押切られた。

⑥被害状況…土佐国内では建物が倒れ、中でも高知下町、幡多中村では火事によって一円が焼失し、死傷者数は何百人にもものぼった。この地では、神々のご加護によつて一人のけが人も出なかった。

⑦過去の大地震…宝永4年の大変（宝永地震）はこの安政南海地震から148年前に起きた。このくらいの年数を経ると必ず大地震が起きるという人もいる。

⑧建立目的…今の人々は、宝永地震のことを昔話のように思つて油断していたから、大きな被害が出た。このことを石碑に彫つて後世へ伝える。

⑨筆者・建立者名等…徳永千規誌す、前田有稔・澤村虎次 刻書、長尾爲治ほか22名 建立。

⑩建立年月日…安政5年9月吉日

この碑が建っている岸本では、11月4日の安政東海地震によつて相当な揺れが生じました。大きな引き潮が起き、手結で鰻が豊漁となりました。安政南海地震が起きたのは翌5日、32時間後です。大きな地響きがして、建物が倒

壊し、避難しようとした人々はめまいがし、身体が思うようにならず、這うようにして高台や山へ避難しました。避難が奏功したようです。この地では死傷者は出なかった、とあります。津波が押し寄せた場所の地名から、浸水域が具体的にわかります。土佐国内の被災状況、148年前に起きた宝永地震についても触れ、このような大地震は繰り返し起きると当時の人々も認識していたようです。建立の目的は「油断の患なからしめんため」と記されています。本碑は安政南海地震発生から4年後に建立されています。

## 終わりに

両県の碑の中には、大地震が100～148年毎に起こるという記述が見られるものがあり、南海地震の発生間隔についての認識が当時の人々の間にあったことに驚かされます。また、地震の後に津波が来ることが情報共有されていた結果、迅速な避難により被害者を出さなかった地域があったことが記されている碑もあります。

本県では、現在、行政・民間事業者・地域住民等をあげて南海トラフ地震対策に取り組んでいます。本展を通じて、過去の震災に学び、来たるべき地震への備えを整える一助としていただければ幸いです。



## 文化財の防災対策〈文化財の避難〉

那須 望

将来必ず起こる南海トラフ地震に備えて、県内ではさまざまな取り組みが行われています。そのなかに文化財の避難があります。

高知市比島に一乗山大中寺龍乗院りゅうじょういんという天台宗寺院があります。この地域は、高知県防災マップによれば、最大約2〜3mの津波が押し寄せると予想されています。身長を優に超える高さの津波の中、まず人命の安全を確保して複数の文化財を守ることがどれほど困難なことか、想像に難くありません。貴重な文化財を後世に伝えるため、平成26年、龍乗院より絵画4点、刀1振が当館へ寄託されました。絵画作品のうち《普賢延命菩薩像》は、鎌倉後

期の作とされ、国の重要文化財にも指定されています。

一方で、仏画や仏像は信仰の対象でもあります。文化財避難が話

題に上ったとしても、守っている地域や檀家の皆さんから離れた場所にある博物館へ預けるのは申し訳ないという意見も当然に聞かれます。本県と同じく、南海トラフ地震による被害が想定されている和歌山県では、仏像などを博物館に避難させる代わりに、3Dで作成したレプリカをお寺に納める取り組みが行われています。この取り組みは、震災にむけた避難だけでなく、盗難などの対策としても有効です。

先人たちがそうしたように、地震、津波を乗り越えて、後世に文化財を伝えるために、これからもさまざまな方法を模索していきたいと考えています。



普賢延命菩薩像 重要文化財 高知市龍乗院所蔵 当館寄託

## 土佐・阿波の津波碑の「伝承」機能向上のための3Dデジタルモデルの制作

海洋研究開発機構高知コア研究所 主任研究員 谷川 亘

過去の南海地震の被害と教訓を記録した地震・津波碑は、高知県だけでなく徳島県内にも数多く建てられている。高知県には宝永地震（1707年）までの地震・津波碑があるが、徳島県にはさらに古い慶長地震（1605年）と正平地震（1361年）の地震碑があり、後者は日本一古い地震・津波碑とされる。多くの地震碑は、徳島県の南部の沿岸部に集中している。徳島県の地震・津波碑は、2016年の徳島県教育委員会の調査により、2017年に19基（全39基を確認）が国の登録記念物に登録された。地震・津波碑が国の登録記念物に登録されたケースは、これが全国初である。これを発端として、今後全国各地の地震・津波碑の価値が見直され、津波地震の理解や防災教育活動への活用が期待される。しかし一方で、高知・徳島の碑の一部は人目のつかない場所に設置されていたり、碑文の説明看板がなかったりして、「伝承」機能が不全に陥っている。

そこで、海洋研究開発機構は2015年から、「伝承」機能の補強とデジタル保全（アーカイブ）を目的として、高知県の地震・津波碑の3Dデジタルモ

デル化とデータベース化を開始している。これまでに30以上の地震・津波碑と津波到達石標を構築した。構築した3Dモデルは、専用のHPサイト（<http://www.jamstec.go.jp/res/ress/tanikawa/>）で閲覧することができる。現場では、石の色合いや日影により判読が難しかった碑文も、3Dモデルでは明瞭に読むことができる。また、3Dモデルに解釈文と関連情報を付加することで、津波碑の深い理解につながる。現在、徳島県の地震・津波碑についても、徳島県教育委員会と協力して、3Dモデルの制作を開始している。今後、高知県の石碑データと統合させて、四国全域のデータベース化の整備を進めていくとともに、自治体や小中学校の防災教材のコンテンツとして地震・津波碑の活用を検討していきたい。



安政南海地震の記録が刻まれた  
沖洲蛭子神社百度石（徳島市）  
【右】3Dモデル  
【左】石碑正面写真

# 作品紹介 平成29年度新たに当館寄託となった作品

那須 望

昨年に当館で開催した特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」（会期：平成29年10月14日～11月26日）では、臨済宗寺院を中心に、京都などの寺院から約50件、県内の寺院から約50件の作品を借用し一堂に展示しました。

この展覧会をきっかけに、2件の県内寺院からの借用作品が当館へ寄託されましたので、2回にわけてここで紹介したいと思います。

臨済宗では、師から弟子へその法が正統に伝わった証として、師の肖像画や墨蹟、袈裟などが授けられました。

この九条袈裟は、師の夢窓疎石（1275～1351）から、弟子の絶海中津（1334～1405）に伝わったとされています。

夢窓疎石は、鎌倉末から南北朝時代に活躍した臨済僧です。夢窓は、朝廷や鎌倉幕府からの大禪寺への住職就任依頼を断り、権力から逃げるように約20年に渡り全国各地を放浪し修禅しました。文保2年（1318）には土佐に渡り、五台山に吸江庵（現在の高知市吸江寺）を結んでいます。しかし、2年足らずで時の執権北条高時の母に半ば強制的に請われ鎌倉へ戻り、その後は、後醍醐天皇や足利尊氏から篤い帰依を受けることとなります。尊氏が発願した京都嵯峨野の天龍寺では、最初の住職（開山）となっています。夢窓は、生前と死後に七代の天皇から国師号を授けられたことから、「七

朝帝師」とも呼ばれるほど、臨済宗の発展に大きな功績を遺した高僧です。夢窓の弟子たちは「夢窓派」と呼ばれ、重要な役職を占めるようになります。

絶海中津は、土佐の出身です。13歳で天龍寺の夢窓疎石のもとで出家、建仁寺（京都市）などで修業を積みました。応安元年（1368）には明に渡り、禅僧たちに参じています。絶海は詩文に秀で、同じく土佐出身の義堂周信（1325～88）とともに、当時の日本の禅僧たちがたしなんだ漢詩文学「五山文学」の双壁と称されています。

この袈裟は、平成21年、吸江寺で発見されました。木箱に入っており、蓋の表には、「従夢窓國師至絶海國師 傳衣吸江寺」とあり、夢窓から絶海に授けられた袈裟であることがわかります。



袈裟が納められていた木箱

発見の翌年には、京都国立博物館へ寄託され、長らく保存管理されていました。この度の特別展での公開をきっかけにして、当館へ寄託いただくこととなりました。作品も、久しぶりに高知に戻り、ほっとしているかもしれません。

袈裟には、五条、七条といった大きさの種類があり、九条袈裟はもっとも大きく、格式高い法会などで高僧が着けたと考えられます。特にこの九条袈裟のように幅が4mを越える袈裟は珍しく、「大袈裟」といえるでしょう。

今は経年変化によって黄味がかっていますが、白地の部分は「綾」という方法で織られ、藤の花や小葵などの日本的な文様が施されており、日本製だと指摘されています。一方の紺地の部分は「羅」という方法で織られていますが、文様はなく、産地の特定は難しい状態です。

袈裟の裏には、江戸時代、享保年間の修理の際の墨書銘があります。染織品という極めて脆弱な作品が、幾度かの修復を行いながら、長い間大切に保存されてきたことが伝わります。

先人たちの思いとともに、後世にこの九条袈裟を伝えるため、大切に保存管理していきたいと思っています。



《九条袈裟 夢窓疎石 絶海中津相伝》  
高知市吸江寺蔵 南北朝時代 絹 丈115.5cm 幅411.0cm



# 『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』 最新号が出るらしいがよ

石畑匡基

ここは当館一階の休息室。何やら、お客さん（○さんと△さん）の会話が聞こえてきます。

- 「受付で売りゆう、研究紀要ってなんぞね？」
- △「おまん、知らんがかえ。ここの学芸員らあが日頃の研究成果を載せちゆう本で。」
- 「そんな言うても、難しゅうて、ちつとも意味がわからん。」
- △「それやったら、わしが最新号の論文をわかりやすう教えちやるき！」
- 「ほいたら、頼んます。」
- △「まず、ここの資料調査員をされゆう、宮里修さんの「琵琶形銅剣」に関する考古の論文よ。」
- 「は？琵琶形銅剣てなに？」
- △「楽器の琵琶に似ちゆうき付いた青銅器の名前で、中国東北地方や朝鮮半島からよく出土するんやと。それが歴史にあるき、分析したがやと。」
- 「高知から出てきたが？」
- △「ようわからんけど、高知から出たもんでないらしい。」
- 「それでなにがわかるが？」
- △「歴史のだけじゃなく、東アジアから出土した琵琶形銅剣の形の変化か

ら、日本の弥生時代が大陸のどの地域の影響を受けたものがわかるがやと」

- 「まっこと、大きな話やな!!」
- △「次も、ここの資料調査員をされゆう、目良裕昭さんの室戸岬の中世港町に関する論文よ。」
- 「中世ってなに？」
- △「ざっくり言うて、鎌倉時代から戦国時代くらいのことよ。」
- 「ふーん。いまとなんか違うが？」
- △「大違いよ。いまの港はだいたいコンクリートで固めちゆうろう。」
- 「そりやそうよ。」
- △「古い時代は入江や河口を港に利用しよったがよ。けれど、室戸岬へんは土地が狭いきに、江戸時代に野中兼山が港を整備するまでは、なんも無かつたって言われてきたがよ。」
- 「おつ、兼山。やつと知った名が。」
- △「けれど、紀貫之も船で帰京したし、古くから港はあつたらうゆうて、中世の港と町の姿を「長宗我部地検帳」を使って復元したちゆう訳よ。」
- 「地検帳からいろいろわかるがや。」
- △「土佐国を検地した結果がほとんど残ちゆう貴重な史料やと。一国分

ゆうのは高知県以外では無いらしいで。」

- 「そら、すごいねえ。」
- △「港町の復元だけやのうて、室戸岬の港が土佐沖を通って中国に渡る南海路でどんな役割を果たしていたかとゆうようなことも書かれちゆう。」
- 「また、スケールの大きな話やな！」
- △「最後がここの学芸員の石畑さんの江戸時代の材木役に関する論文よ。」
- 「それ知ちゆう。劇で木の役をすることやろ？」
- △「ちがうで。江戸幕府の命令でお城の石垣を作る手伝いをする代わりに、材木を納めることよ。」
- 「なんでそんなことしたが？」
- △「大坂城の石垣を積む手伝いをした時に、お金は足らんは、工事は遅れるはで江戸幕府にこじやんと叱られたがやと！」
- 「そりや可愛そうに。」
- △「そいじゃき、替わりに材木で許してもらおうとしたがよ。」
- 「そんな、大丈夫なが？」
- △「そこは、幕府も許してくれたがやけど…」
- 「ほんで、どうなったが？」
- △「材木を納めるのも大変で、幕府から結局叱られるがやと。」
- 「そりや、意味がないな。んで、どうなるが？」

△「そこは読んでのお楽しみぞね。」

○「気になるなあ。」

△「もう一つ、忘れちよった。資料紹介があつたがや。」

○「そりやなに？」

△「新しく見つかった資料とかを活字にして紹介するやつよ。」

○「昔の字はミミズみたいで読めんきね。」

△「今回の、戊辰戦争に行った郷士の森田団右衛門が帰って来てから給料とか請求したもんながやと。」

○「えー！戦争行つても、そんな時は給料出んがやね。」

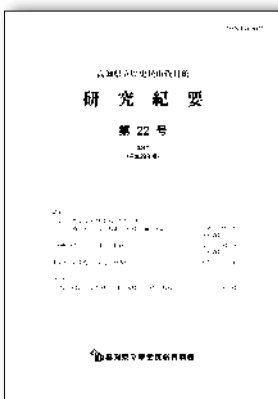
△「そうみたいやな。この団右衛門さんは絵が得意で自分が銃で撃たれた時の戦いも描いちゃうがやと！」

○「すごい執念やにああ。」

△「どうで、読んでみとうなつてきたろう？」

○「まあ、確かににああ。暫時、受付に行かんと！」

いかがです？皆様もぜひ手にとってご覧ください。



# れきみんニュース

## れきみんのお正月

1月2日・3日にれきみんのお正月が開催され、多くの方にご来館いただきました。れきみんのお正月始まって以来のお正月2日間開催や今までにないプログラムを組むなど、新しいものづくりのイベントとなり、大いに盛り上がりしました。中でも3日午後、強風の中、屋外にて開催された安芸高校書道部による書道パフォーマンスの力強さには、お客様も当館職員も圧倒され、見入ってしまうほどでした。

れきみんでは本年も様々な企画展・イベントを開催予定です。皆さまの御越しをお待ちしております。

(式地)



## 史跡めぐり

### 「堺事件―土佐藩兵の足跡をたどる―」を終えて



この度、堺事件関連の史跡をめぐるツアーを開催しました。初日は事件現場となった記念碑のある港から、切腹場所となった妙國寺さらには土佐藩十一烈士の墓所のある宝珠院などを巡りました。風雨にも負けず一生懸命150年前の歴史の痕跡を目に焼き付けようとする参加者の姿が印象的でした。現地では、堺市の観光ボランティアの方たちからの分かりやすい解説をいただき、新しい発見と出会いがありました。翌日はうって代わって快晴となり、神戸のフランス水兵墓地にて思い思いの時間を過ごしました。

(野本)

## 岡豊城跡だより

### ●岡豊城、お城EXPOで大暴れ

岡豊城が、昨年暮に横浜市中で開催された「お城EXPO2017」(12/22〜24)にブース出展しました。会場は3日間で延べ1万9千人を超える来城者があり、大盛況でした。昨年春から岡豊城跡の案内人を務めていただいている二宮哲也さんが、会場で長宗我部の法被を着て岡豊城跡の解説をしてくださり、「大変素晴らしい、3日間行ったが飽きず、とても面白かった」とのことでした。二宮さん、ありがとうございました。

### ●櫓への入場者が2万人を突破

幕末維新博対応として詰に上げた櫓で、れきみんのお正月イベント開催中の平成30年1月3日(水)、2万人目の入場者がありました。南国市の女性で、記念品を受け取り、法螺貝も吹いて帰られました。素敵な思い出になったのではないのでしょうか。

(檜垣)



## れきみんスタンプラリー 第2弾を実施します!

昨年度、当館で開催した企画展、特別展の観覧と岡豊山詰の櫓への来場でもオリジナルスタンプを集めて景品をもらえるスタンプラリーを開催しました。参加者のみなさんから大変好評をいただき、なんと第2弾の実施が決定しました!平成30年度は内容も少しパワーアップして対象となる企画は10本です。当館で開催する企画展の観覧、櫓への入場、イベントへの参加(入館)によってスタンプを押印いたします。景品には、限定オリジナルグッズや図録など魅力的なラインナップをそろえました。また、10個すべてのスタンプを集めた方は、当館のVIP入館券(達成日から1年以内の1日間に限り、入館無料に加えて学芸員が特別解説で展覧会を案内)をプレゼントします。ぜひチャレンジしてみてください。

(那須)



平成29年度版(第1弾)



岡豊城跡国史跡指定10周年記念

土佐の  
まほろば、<sup>うおー</sup>歩く。

土佐の戦国武将・長宗我部氏の居城跡である岡豊城跡が国指定史跡となって10年を記念した、「土佐のまほろば地区振興協議会」主催のウォーキングイベントです。岡豊地区の長宗我部氏ゆかりの地を巡る全4回、4コースをご用意！各日定員20名、要事前申込み（088-862-2211）です。

詳しい日程・コースは歴史館ホームページかチラシをご覧ください。

続日本100名城 岡豊城も参加  
スタンプラリーがスタート

公益財団法人日本城郭協会による公式スタンプラリーが4月6日（金・城の日）から始まります。続日本100名城に選定された岡豊城も参加しています。スタンプは、歴史館2F総合案内前と櫓に置きます。無料ガイド付きの岡豊城跡めぐりもお楽しみください。詳しくは、当館ホームページにてご確認ください。

5月3日（木・祝）は  
れきみんの日

観覧料は無料です

臨時休館のお知らせ

館内メンテナンス作業のため 7月2日（月）休館

岡豊風日（おこうふうじつ） 第101号  
平成30年3月31日  
編集・発行 （公財）高知県文化財団  
〒783-0044 高知県立歴史民俗資料館  
南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088-862-2211  
FAX 088-862-2110  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり  
観覧料  
（通常展）大人（18才以上）460円  
（企画展）通常展510円  
団体（20名以上）360円  
（企画展）通常展410円  
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者（一名）  
印刷・川北印刷株式会社

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>  
Eメール: [rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp](mailto:rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp)

企画展

志国高知 幕末維新博関連企画第6弾！

安政地震、幕末を揺るがす  
—土佐・阿波の地震・津波碑が語るもの—

4月28日（土）～7月1日（日）

幕末の混乱の最中に起きた安政南海地震について、土佐・阿波に建てられた地震・津波碑等に記された内容を拓本から読み取ります。



伊田海岸地震・津波碑拓本



伊田海岸地震・津波碑 黒潮町大方伊田

- 講演会「幕末の土佐・阿波の地震碑」  
5月12日（土）13:00～14:30
- 講座1「歴史を写しとる—拓本のとり方—」  
5月12日（土）15:00～16:00（先着15名）  
講演会・講座1とも  
日本石仏協会理事・土佐史談会理事 岡村庄造氏
- 講座2「地震・津波碑を残す—3D化プロジェクト—」  
5月26日（土）14:00～16:00  
高知コア研究所主任研究員 谷川亘氏  
※講演会・講座とも要申込、講座1以外は定員 各130名
- ミュージアムトーク 5月3日（木・祝）、6月2日（土）、6月16日（土）14:00～14:30（予約不要）

コーナー展

「火縄銃の世界」

4月28日（土）～8月13日（月）

長宗我部軍の兵士も愛用した火縄式の鉄砲を生産地別に分かりやすく展示します。

予告

志国高知 幕末維新博関連企画 第7弾

企画展「絵金を継ぐものたち  
—当館所蔵初公開作品を中心に—」

7月14日（土）～9月17日（月・祝）

ダイナミックな構図と極彩色で描く芝居絵屏風を生み出した絵金。本展では、絵金の弟子たちによる芝居絵屏風や幟、白描などを中心に紹介します。



義経千本桜 すしや